

令和 5 年度第 1 回酒田市公民館運営審議会 会議記録

令和 5 年 8 月 1 日（火）

午後 2 時 00 分～3 時 00 分

総合文化センター412 号室

- 出席者 佐藤耕委員、五十嵐勤委員、渡部恵美子委員、石井大介委員、大滝美樹委員、佐藤純子委員、成澤つるみ委員
- 欠席者 長澤和博委員、加藤千鶴委員
- 事務局 前田課長、小野課長補佐、眞嶋社会教育主査兼係長、菅原調整主任、木崎主任、庄司主任、工藤主事

○委任状交付

1 開 会（事務局）

2 課長あいさつ

3 自己紹介

4 委員長及び副委員長の選出

5 委員長あいさつ

6 協 議

（1）令和 5 年度中央公民館主要事業について（事務局 内容説明）

<質疑応答>

委員 2 点ほど聞きたいことがあり、まず、県からの補助をいただいて行う事業があるとおっしゃっていたが、補助金をいただく条件みたいなものがあるのかどうか、県補助を受けられる事業と受けられない事業の有無は何なのか。次にこの会議での意見が次の年に反映されるとおっしゃっていたが、令和 4 年度で出た反省を令和 5 年度の事業・予算にどう生かしたのかを教えてください。

事務局 まず、県からの補助が受けられる補助事業については、山形県の方で主催をしている事業があり、それをこちらで取りまとめ等々してそのまま取り入れている形になる。また、前年度の事業から変わった部分についてだが、昨年の運営審議会をやった時には予算

がもう確定していた。そのため、こちらでこういった事業をしたいということで、予算的なところを組む時点で予算がつかなかったものがいくつかあり、前年度から改善できなかった部分の方が多い。

委員 事業の中身的なところで改善した部分はあるか。

事務局 補足になるが、事業名自体は正直毎年大きく変わっているものではないが、中身については受講者アンケートや参加者の声、講師の考え等に基づいて事業目的自体は同じであっても、具体的な中身については変えている。例えば酒田愛ご飯にしても鳥海山ジオパークの講座もそうだが、参加者等の声を汲んでメニューをその時々で変えて実施しているところではあるが、なかなかコロナ禍の3年間で接触などが制限され、触れ合うような活動は実施するのが難しい。今年度から徐々に令和元年度で行っていたようなものに取り組むことができるような世の中になったかなということで、少しずつ中身については変えてやっているとところだが、なかなかここ数年、新規の事業を生み出せていないので委員の方の意見をいただきながら令和6年度に反映していきたい。

委員 私が思うには、例えばこういう講座で、「どのくらいの参加を目標としている。そして結果は何人だった。それでどのような影響があったか。」など受講してくれたかたにどのような影響がありましたというところまで分析しないとさらにステップアップできないのではないかな。民間企業だと業績が悪いと給料が減ったりボーナスが少なくなったりするため、イベントを行ったら必ずイベントの目的、目標人数そして、その結果を分析して本当にその事業がよかったのか悪かったのか細かくチェックされる。ただ、県・市の事業は「参加人数が何人でした。」というところまでで、細かい分析をやっていないように感じる。

事務局 公民館運営審議会の流れとしては、年2回ほど実施しており年度末近くにその年の事業の結果、どういう効果があったのだとかの反省などをまとめて示している。また、各事業を実施した後には必ず参加者の方にアンケートをお願いし、講座や事業がどうだったのかというような振り返りは必ずしている。数字だけではないが、数値的な目標もこちらで考えている。

委員 それであれば今年の目標というか、去年を踏まえての目標というか去年はこうだったから今年はこうしたいというような欄を今回の資料に設けた方がいいと思う。

事務局 資料に関しては委員の皆さんの意見をいただき、より分かりやすい資料作りを心掛ける。

(2) 酒田市中央公民館の今後のあり方(案)について(事務局 内容説明)

<質疑応答>

委員 この委員会の意見をどんな形で持っていくのかなどのビジョンが漠然としていて全然見えないがいつ頃を目途にしているのか。考え方として公民館を廃止しようとしているのなら、いつ頃の目標にしているのか。前年度の2回目の会議の時も議題に上がって

いたが、いつまで引きずるのか。2000 何年頃までを目途にしているなどの具体的な目標を伺いたい。

事務局 いつ頃を目途にという話だが、具体的なものはまだなく教育委員会の中でも議論を重ねているところなので審議会の皆様からご意見をいただき、参考にさせていただくというところ。ただ、今回もまたこのように説明をしてご意見をいただくということなので、教育委員会としてはある程度公民館廃止に向けて動いていきたいというところである。また、公民館を廃止するということがいいのかどうなのかというところを委員の皆様からご意見いただきたい。

委員 すごい認識不足で申し訳ないが、私は以前小学校に勤めていたので地域ごとに公民館が必ずあった。それが、全部コミセンになって公民館主事はもともと職員だったのが、引き上げられ今の制度になった。それなのになぜ文化センターにだけ公民館が置かれているのか少し不思議だったが、社会教育法上、各市町村に最低 1 つは公民館を置かなければならないので文化センターに公民館を設置していると理解していたがそれで合っているか。

事務局 社会教育法上は「置かなければならない」ではなく「置くことができる」なので、すでに全国的に見ると 2 割ほどの自治体では社会教育法上の公民館ではなくなっている。酒田市も中央公民館を廃止することに関して問題はない。

委員 公民館の機能分化が進むとあるが、里仁館も数年前から民間の講座で日本海病院の医者の方のお話を聞く講座を夜にしている。当初は松山の里仁館の中でやっていたが、夜に松山の方にはなかなか人が集まらないので、文化センターを使った方が講師や受講者にとって都合がいいということでこちらの 4 階の部屋を使っている。その結果以前よりも受講する人が増え、効果があったように感じる。里仁館としてはすでに文化センターを利用させてもらっているし、里仁館自体でも建物の老朽化などの課題があり、いつまで運営が続けられるか見通しがなかなか難しい状況なので、里仁館の講座のいくつかは文化センターやミライニを利用して行っている。自分たちが文化センターで講座を開くときは中央公民館でやっているという意識がない。文化センターが中央公民館でなくなっても、色々な形で活用していけたらありがたい。また、元々小学校だった施設だとなかなか生涯学習の受講生たちが使えるような形にするのは難しいということで文化センターあるいはミライニを使わせていただければありがたい。

委員 初めてこの会議に参加させていただいて、今話を聞いて今まで公民館が担ってきた機能がなくなるわけではなく、社会教育課の事業として残っていくのであれば公民館廃止のデメリットとして挙げている部分というのはあまり大きな問題ではないと思う。また、この公民館、事業が存続する上でそれなりの市税が投入されていると思うので、そういったところのメリットが出てくるのであれば、形を変えていってより効果的な使い方に変えていくためにもデメリットが少ないのであれば公民館機能は廃止した方がいいのかなと思う。

委員 私としては多くの市民の方が利用できる環境を構築するというのが一番重要なのではないかと考えている。その上で企業が利用する際の企業料金を作ったりだとか、あとはどこでも利用できるようにある程度なってきた場合、その企業がちゃんとした企業なのかというところの確認も必要になってくると思う。あまりちゃんとしていない企業にかしてしまうと結構大変なことになりうるリスクがあるかなと思う。また、これはお金のかかる話だが、企業が今後ここを使うという場合には無線 LAN は必要になってくるのではないかなと思う。

委員 本当に図書館がなくなってから高校生とか若い人たちが少なくなって静かになったと思う。「静か＝活気がない」という感じになって本当に寂しい。また、企業でイベントなどをするとき酒田や鶴岡の会場が候補にあがらず、ほとんど三川のいろりびの里でやっている。そのような利用をさせれば大きな金額が入ると思う。色んな人に利用していただいて元気な酒田という印象がつく活気のある施設にしていけたらいいのではないかなと思う。

委員 最後に確認したいことがあるが、中央公民館が廃止になったとしても公民館の主催事業は社会教育課の事業に引き継がれるとあったが、公民館が廃止された場合そういった講座の会費などが高くなるのではないかな。また、公民館を廃止し、企業などより多くの人に活用してもらい、文化センターの稼働率を上げるとか利用収入を増やすということとはとてもいいことだと思うが、文化センターで講座を主催する側の負担が増えるということはその講座に参加する受講者の負担も増えるのか伺いたい。最後に、最近ではいろいろな施設が改築・改修をしているがここ文化センターの改築・改修はいつ頃を予定しているのか。

事務局 講座の参加者負担についてだが、令和 5 年度の事業として載っている事業について参加者の費用負担が変わるかどうかについては、変わる予定は別個にしていないのでそれが直ちに問題になることはないと考えている。また、施設の改修計画というか、それについても文化センターも築約 40 年経っているので雨漏りがしているとか直接見えないところで少しずつ傷んではきているので、そういったところを含めて酒田市全体の公共施設でどこの施設はきちんと整備して、ちゃんと利用する形に持っていく、また、もう利用が少なく今後の利用見込みがないところについては老朽化で使えないとともに廃止にするなどをしていくように考えている。いままでは何となく全部の施設を維持する形でやってきたが、これからはどの施設を維持していくかのメリハリをつけないとその施設で行う講座などに予算が回らなくなってしまう、それでは本末転倒のような話になるので、必要な施設は残す代わりにちゃんと利用に適した形で貸せるような施設にするというのが全庁的な考えとなっている。一応、公共施設の適切化計画の中で文化センターについては当面維持するとなっているので、この施設はまず、多くの方から利用してもらいある程度数字的に実績を作って、予算要求の時に説得力のある形で交渉していきたいと考えている。

- (3) その他
特になし

7 報告

- (1) 生涯学習まつり 2023 の概要について（事務局 内容説明）
特になし

- (2) その他
特になし

- 8 その他
特になし

9 閉会（事務局）